



一般社団法人 静岡県安全運転管理協会



各地区安管協会の活動紹介（５地区）

「交通死亡事故現場診断」を実施！（令和元年 11 月中）

御殿場地区、藤枝地区、沼津地区、袋井地区、菊川地区安全運転管理協会は、地区内で発生した交通死亡事故の再発防止を期して、この 11 月中に管轄警察署の「交通死亡事故現場診断」に参加し、これからの交通事故防止対策等を協議しました。

【御殿場地区】

11 月 7 日（木）、御殿場警察署、御殿場市役所、交通安全協会等の関係団体とともに、同地区安全運転管理協会から会長以下役員と事務局長、推進事業所安全運転管理者 6 人が参加し、合計 16 人により

10 月 18 日（金）の夜間、御殿場市茱萸沢地先県道で発生した交通死亡事故（普通乗用車と倒れていた歩行者との衝突事故、歩行者の 75 歳男性が死亡）の事故現場診断を行いました。

この事故現場は信号交差点付近で、何らかの理由で道路に倒れていた歩行者と青信号で交差点を走行していた普通乗用車が衝突した事故で、現場診断の結果

○ 運転ドライバーに対し、夜間走行、信号交差点の通行、スピード抑制等に関する意識づけの啓発活動が必要

○ 歩行者に対し、死亡事故発生を注意喚起する広報活動とともに、協会各事業所に対しても対策の周知徹底を呼び掛ける

などの事故防止対策に関する意見が出されました。



【現場診断参加者により
事故防止対策を協議】

【藤枝地区】

11月8日(金)、藤枝警察署、藤枝市役所、県土木事務所、交通安全協会などの関係団体とともに、同地区安全運転管理協会から役員及び今年度推進事業所の東海ガス、藤枝市立病院の安全運転管理者など5人が参加、合計20人により

11月3日(日)の早朝、藤枝市駅前2丁目地先県道で発生した交通死亡事故(普通乗用車と歩行者との衝突事故、歩行者の26歳男性が死亡)の事故現場診断を行いました。

この事故現場はJR駅前の幅員の広い直線道路で、現場診断及び協議の結果

○ 夜間は視界が低下することから、歩行者を早期発見するためハイビームを活用、また速度を控える等の注意看板を設置

○ 同地区内は、若者起因の交通事故が多発しているため、若年層に対する広報、安全指導をより推進していく

などの事故防止対策に関する意見が出されました。



【事故の発生現場を確認】



【参加者により再発防止対策を協議】

【沼津地区】

11月14日(木)、沼津警察署、沼津市役所、交通安全協会、道路管理者等関係団体とともに、同地区安管協会から役員、事務局等6人が参加、合計20人により11月7日(木)早朝、沼津市原地先の県道富士清水線で発生した交通死亡事故(右折の普通貨物車と横断歩行者との衝突事故、歩行者の64歳女性が死亡)の事故現場診断を行いました。

この事故現場はT字路の信号交差点で、横断歩道の歩行者と同一方向に走行中の普通貨物車が右折する際に衝突したもので、現場診断及び協議の結果

- 交差点内の道路標示が見にくく、ショートカットして右折する車が多いため、交差点中心部の道路標示や右折ラインを標示する。
- 運転者に対する注意喚起はもちろん、歩行者に対しても反射材等の交通安全グッズの着用を広報啓発する。

などの事故防止対策に関する意見が出されました。

また現場診断終了後、事故現場周辺で現場診断参加者により、のぼり旗を掲出した交通安全の広報啓発活動を実施しました。



【交通第一課長の事故状況説明】



【事故発生現場を確認】



【再発防止対策を協議】



【交通安全の広報活動を実施】

【袋井地区】

11月15日(金)、袋井警察署、袋井市役所、地区交通安全協会、土木事務所、地域安全活動推進員等の関係団体とともに、同地区安全運転管理協会から役員及び事務局長など5人が参加、合計30人により

11月10日(日)夕方、袋井市川会地先主要地方道で発生した交通死亡事故(軽四貨物車と道路横断中の歩行者との衝突事故、歩行者の82歳女性が死亡)の事故現場診断を行いました。

この事故現場は、信号交差点から50mほど離れた横断歩道のない場所であり、参加者による現場診断及び協議の結果

- 運転者への注意喚起として歩行者への注意や事故発生等の看板を設置
- 道路の速度制限設定に対する検討、協議
- 付近住民や運転者に対する交通安全広報・啓発活動を推進

などの事故防止対策に関する意見が出されました。



【参加者が事故発生現場を確認】



【再発防止対策を協議】

【菊川地区】

11月21日(木)、菊川警察署、菊川市役所、地区交通安全協会、地元自治会などの関係団体とともに、同地区安全運転管理協会から役員や今年度推進事業所のクミアイ化学工業(株)所長、安全運転管理者など合計40人が参加して

10月25日(金)夕方、菊川下平川地先の市道で発生した交通死亡事故(普通乗用車と道路横断中の歩行者との衝突事故、歩行者の94歳男性が死亡)の事故現場診断を行いました。

この事故現場は信号のない交差点で、横断歩道を横断中に普通乗用車と衝突したもので、自発光式反射材を使用した検証と合わせて現場診断を実施した結果

○ 夜間の街灯がない場所でも、自発光式反射材を着用すれば歩行者の認識ができるため、歩行者を早期発見するための反射材活用を広報啓発

○ 道路管理者から「横断歩道あり」の自発光式標識設置を検討すると提案などの事故防止対策に関する意見が出されました。



【菊川署交通課員の事故状況説明】

【参加者らが事故防止対策を協議】

